

中心市街地における歩行者の回遊行動誘発空間 ～大分市の通り抜け空間～

佐藤誠治建築・都市計画研究室

井上直樹・足立心也

TOORINUKE

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

1. 研究の背景と目的

背景: 近年さまざまな都市で、中心市街地の衰退が叫ばれている。現在の大分市中心市街地でも、そういった状況が見られる。大分市中心市街地では、賑わいのある通りが一つだけですぐ終わり、通りどうしのつながりがないので歩き回る楽しさというものがあまり感じられない。そこで本研究では、中心市街地の**面的回遊性**の無さが大分市中心市街地の衰退の大きな原因の1つではないかと考えた。

目的: 中心市街地活性化→面的に広がる必要がある→**通り抜け空間に注目**

本研究での**通り抜け空間**とは大分市中心市街地の主な商店街と他の通りをつなぐ空間のこと

表の商店街と裏の通りをつなぎ、市街地を面的な空間にする通り抜け空間の活用は重要な課題

- ・ 中心市街地を面的空間として来街者に捉えさせるために、表と裏をつなぐ通り抜け空間の物理的特性を明らかにする
- ・ 通り抜け空間に出店している店舗経営者から見た、現況の通り抜け空間の評価と、物理的空間特性との関係性

2. 研究のフロー

大分市中心市街地における通り抜け空間の調査

- ・ 通り抜け空間の抽出
- ・ 通り抜け空間の物理的空間特性把握

通り抜け空間の類型化

- ・ 抽出した通り抜け空間を分類
- ・ 同じ物理的性質をもった通りごとに類型化

店舗経営者へのアンケート調査

- ・ 店舗経営者の評価による現況把握

空間特性と評価の関係

通り抜け空間の物理的空間特性を明らかにし、店舗経営者からみた通り抜け空間の現況を明らかにする

3. 通り抜け空間の抽出

大分市中心市街地で現地踏査により通り抜け空間の抽出を行った

ガレリア竹町 … 6通り

セントポルタ中央町 … 12通り

府内5番街 … 6通り

サンサン通り … 2通り

ポルトソール … 4通り

合計 30通り

通り抜け空間の構成要素（8つの物理的空間構成要素を調査）

内部空間構成	店舗分布状況	平面形状	断面形状	終点		端点の扉	屋根
				eye stop	空間構成		

TOORINUKE

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

4. 類型化

数量化Ⅲ類、クラスター分析により通り抜け空間を分類

通り抜け空間の構成要素(8項目)

内部空間構成	店舗分布状況	平面形状	断面形状	終点		端点の扉	屋根
				eye stop	空間構成		

通り抜け空間の分類指標(4項目)

内部空間構成	店舗分布状況	平面形状	断面形状
--------	--------	------	------

		内部空間構成	店舗分布状況		平面形状	断面形状	分類
			左	右			
直線平面店舗密型	GT 5	E	D	N	S	P	EDNSP
	CP 1	E	D	D	S	P	EDDSP
	CP 3	E	D	N	S	P	EDNSP
	HF 2	E	D	N	S	P	EDNSP
立体店舗中型	CP 6	E	M	F	K	S	EMFKS
	HF 3	E	M	M	R	S	EMMRS
平面店舗疎型	GT 3	E	N	F	K	P	ENFKP
	GT 4	E	F	F	S	P	EFFSP
	CP 5	E	F	F	R	P	EFFRP
	CP 13	E	F	N	R	P	EFNRP
	HF 6	E	F	N	S	S	EFNSS
	PS 2	E	F	F	K	P	EFFKP
直線平面店舗無型	GT 1	N	N	N	S	P	NNNSP
	GT 2	N	N	N	S	P	NNNSP
	GT 6	N	N	N	S	P	NNNSP
	CP 4	N	N	N	R	P	NNNRP
	CP 7	N	N	N	K	P	NNNKP
	HF 1	N	N	N	K	P	NNNKP
	HF 5	N	N	N	S	P	NNNSP
	PS 1	N	N	N	S	P	NNNSP
	PS 3	N	N	N	S	P	NNNSP
	PS 4	N	N	N	S	P	NNNSP
店内通り抜け型	CP 8	P	N	N	F	P	PNNFP
	CP 9	P	N	N	F	P	PNNFP
	CP 10	P	N	N	F	P	PNNFP
	CP 11	P	N	N	F	P	PNNFP
	CP 12	P	N	N	F	S	PNNFS
	HF 4	P	N	N	F	P	PNNFP
	SS 1	P	N	N	F	P	PNNFP
	SS 2	P	N	N	F	P	PNNFP

内部空間構成	店舗なし	N(nothing)
	店舗あり	E(existence)
店舗分布状況	店内通り抜け	P(passing through)
	サンプル無し	N(nothing)
	疎	F(few)
	中	M(middle)
平面形状	密	D(dense)
	直線	S(straight)
	直角	R(right angle)
	鍵型	K(key type)
断面形状	面	F(field)
	平面	P(plane)
	立体	S(solid)

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9



— 直線平面店舗密型

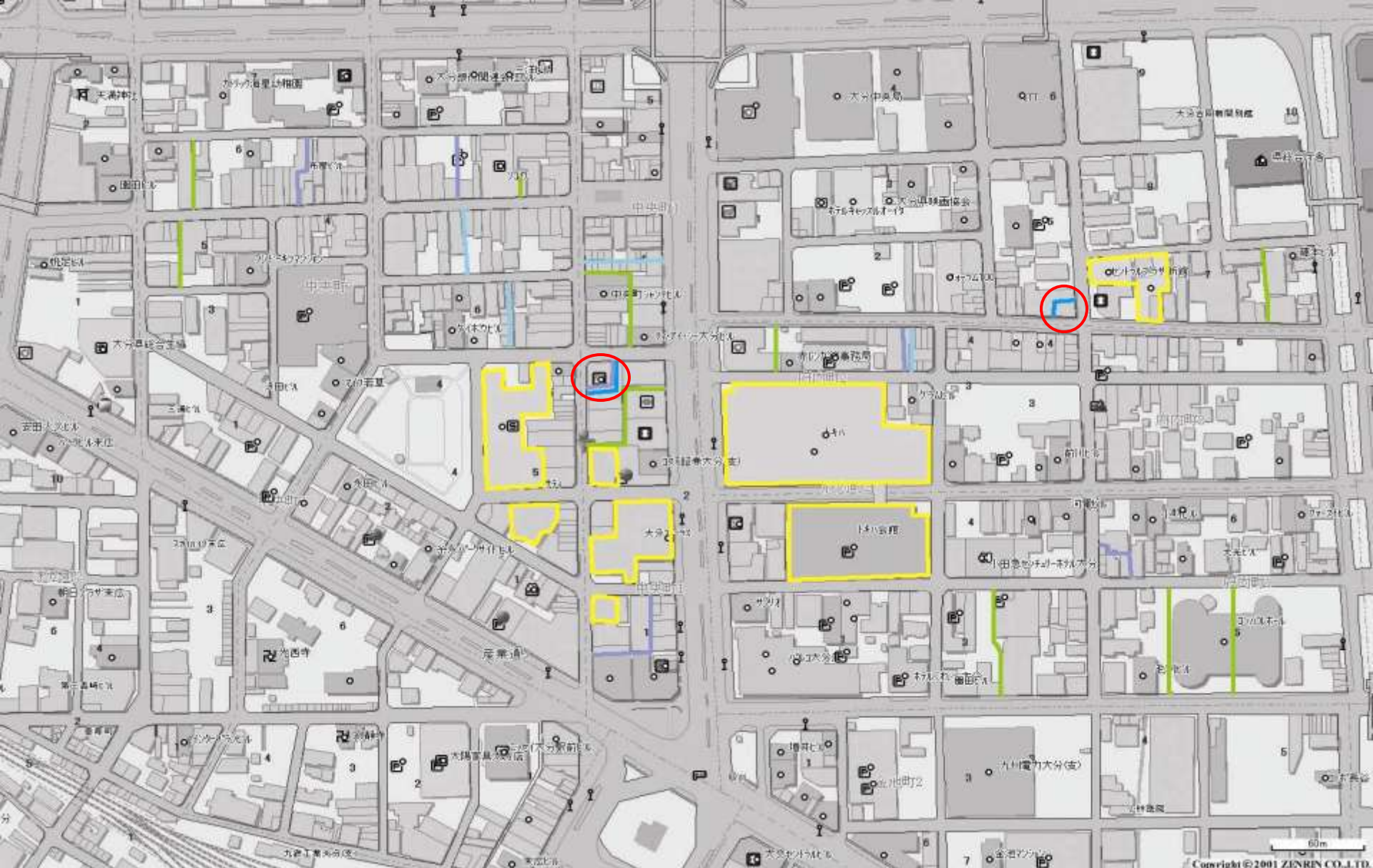
— 立体店舗中型

— 平面店舗疎型

— 直線平面店舗無型

— 店内通り抜け型

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
1 2 3 4 5 6 7 8 9



— 直線平面店舗密型
— 直線平面店舗無型

— 立体店舗中型
— 店内通り抜け型

— 平面店舗疎型

1 2 3 4 5 6 7 8 9
1 2 3 4 5 6 7 8 9

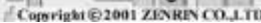


— 直線平面店舗密型
— 直線平面店舗無型

— 立体店舗中型
— 店内通り抜け型

— 平面店舗疎型

1 2 3 4 5 6 7 8 9



□ 1 2 3 4 5 6 7 8 9
型 1 2 3 4 5 6 7 8 9



— 直線平面店舗密型
— 直線平面店舗無型

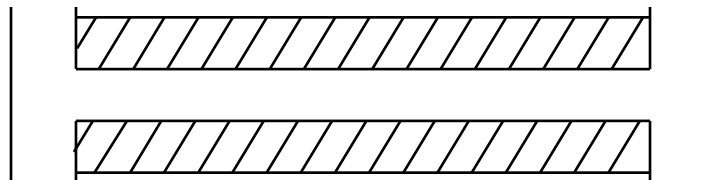
— 立体店舗中型
— 店内通り抜け型

— 平面店舗疎型

1 2 3 4 5 6 7 8 9
1 2 3 4 5 6 7 8 9

直線平面店舗密型

全体の16.1%



主な業種：飲食・物販（食品）

- ・ 店舗密集度の高い類型である
- ・ 全て直線で平面の通りである
- ・ 全て通りに屋根がある
- ・ 通り抜けた先が店舗である通りが多い

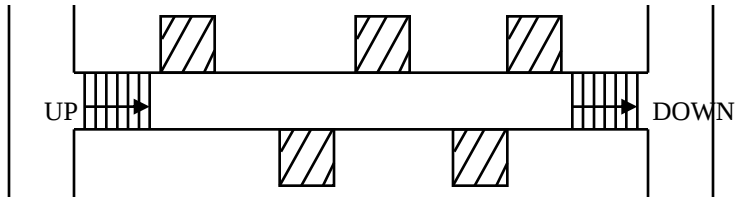


TOORINUKE

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

立体店舗中型

全体の6.5%



主な業種：飲食・料飲

- ・ 店舗密集度が中の類型である
- ・ 全て立体の通りである
- ・ 通り抜けた先にも店がある

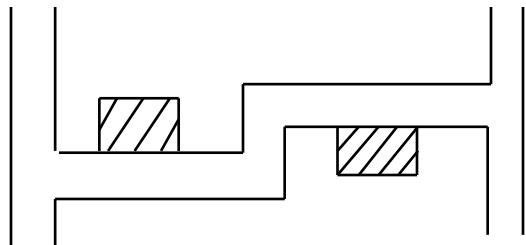


TOORINUKE

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

平面店舗疎型

全体の19.4%



主な業種：飲食・物販（服飾）

- ・ 店舗密集度の低い類型である
- ・ 様々な平面形状の通りが混在した類型である

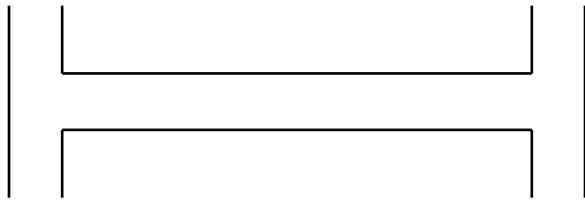


TOORINUKE

0123456789
0123456789

直線平面店舗無型

全体の32.3%



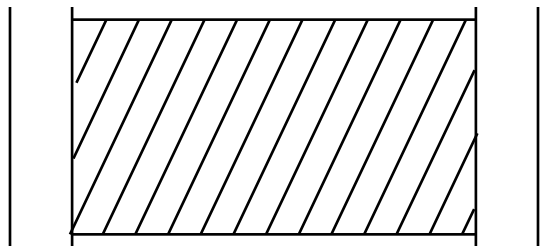
- ・ 通りに店舗のない類型である
- ・ 全て直線で平面の通りである
- ・ 通り抜けた先も店舗はほとんどない
- ・ 駐車場につながっている通りがあるのはこの類型だけである



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

店内通り抜け型

全体の25.8%



- ・デパートなど店内を通り抜けていく類型である
- ・デパートなど店内を通り抜けるため、出口が1ヶ所だけでなく様々な方向へ抜けられる場合が多い



TOORINUKE

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

5. アンケート調査

通り抜け空間を利用している人の通り抜け空間に対する意識や評価を知るために、通り抜け空間に出店されている店舗経営者を対象としてアンケート調査を行った

注：店舗経営者を対象としているため直線平面店舗無型と店内通り抜け型についてはアンケート調査を実施していない

アンケート項目

配布部数 … 49部

回収部数 … 47部

回収率 … 96%

A. 回答者の属性について

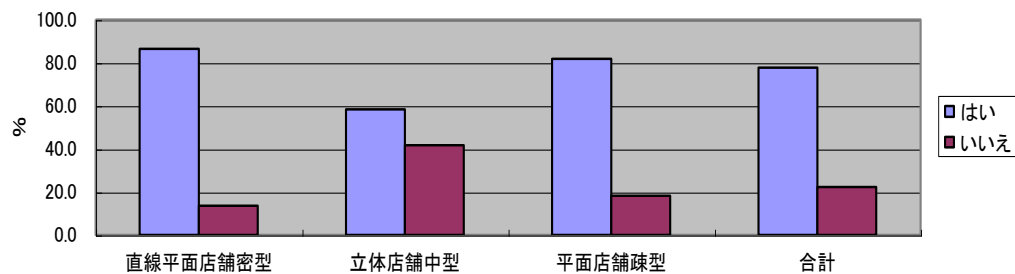
B. 通り抜け空間について

C. 店舗について

D. 大分市中心市街地について

アンケート集計結果

通り抜けの道として利用してほしいか

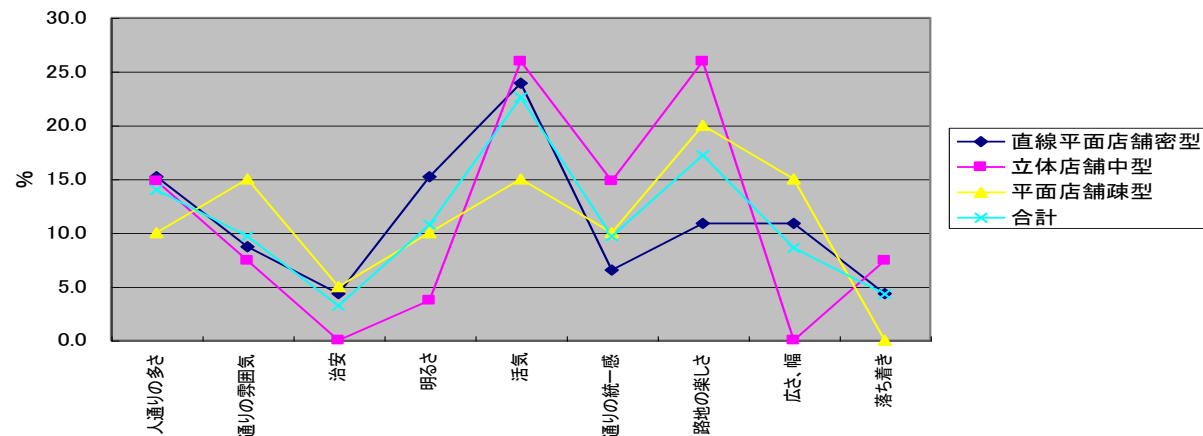


■ 直線平面店舗密型、平面店舗疎型は「はい」と答えた店がほとんどである

■ 立体店舗中型は「いいえ」と答えた店の割合が高くなっている。

■ 立体店舗中型はビルの内部を立体的に通るため通り抜けの道としての意識が低いのではないかと考えられる。

不満に感じている項目

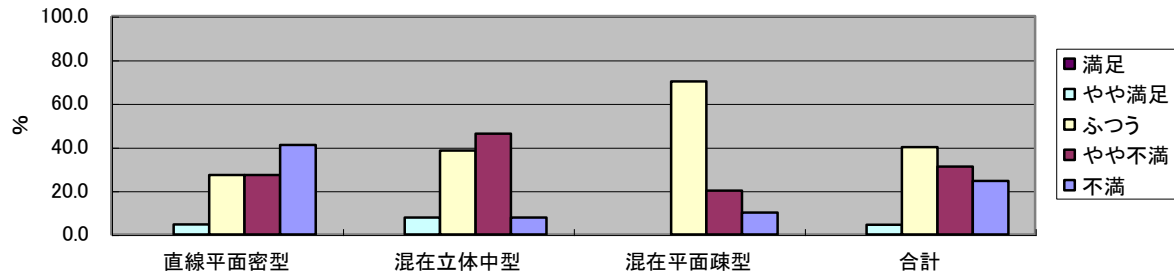


■ 全体的にみると、活気や路地の楽しさに不満を感じている店が多い

■ 平面店舗疎型は他の類型に比べて活気に不満を感じている店は少ない。

■ 直線平面店舗密型は他の類型に比べて路地の楽しさに不満を感じている店は少なく、活気に次いで人通りの多さ、明るさに不満を感じている店が多い。

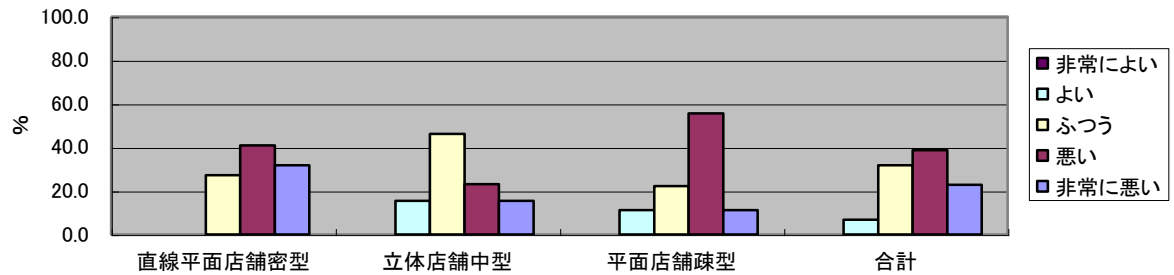
通りの満足度



■ 全体的に不満に感じている店が多くなっている。

■ 店舗密集度が高くなるほど不満に感じている店の割合が高くなっている。

市街地の回遊性



■ 悪いと感じている店が多い。

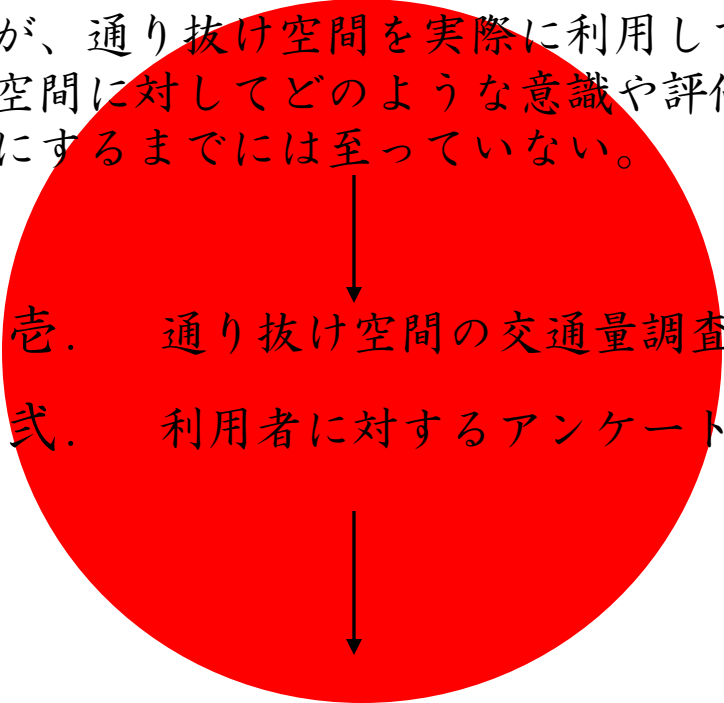
■ 立体店舗中型・平面店舗疎型ではよいという店も若干みられるが、直線平面店舗密型ではよいという店はまったくない。

6. 総括

- 現地踏査により大分市中心市街地では30本の通り抜け空間を抽出した。
- 数量化Ⅲ類とクラスター分析により通り抜け空間を5つの類型に分類することが出来た。
- 類型ごとの特徴を明らかにした。
- 通り抜け空間に出店されている店舗経営者にアンケートを実施したところ現在の通り抜け空間に対して不満を持っている人が多いことがわかった。また通りについて最も不満に感じていることは「活気」と「路地の楽しさ」であった。
- 通り抜け空間に対しては全体的に不満に感じている人が多かったが、特に店舗密集度の高い直線平面店舗密型が通り抜け空間に対して不満に感じている人の割合が高かった。逆に店舗密集度の低い平面店舗疎型の方が通りに対しての不満に感じている人の割合が低かった。

七. 今後の課題

今回は通り抜け空間に出店されている店舗経営者を対象としてアンケート調査を行ったが、通り抜け空間を実際に利用している人がどれくらいいて、通り抜け空間に対してどのような意識や評価をしているのかということをは明らかにするまでには至っていない。



壱. 通り抜け空間の交通量調査
弍. 利用者に対するアンケート

総合的な通り抜け空間の評価をし、中心市街地に面的な歩行者空間を確保するためにはどのような通り抜け空間が有効であるということをは明らかにする